

障害者に関するマークに対する提案

『障害者に関するマーク』をより広く認知してもらい、
障害を持たれた方がより暮らしやすい社会を実現するために。

ほのぼの広島会
担当 酒井伸雄



現在日本には様々な障害を持つ方が暮らしていて、その方たちが社会に出て行くためには、障害に対応した施設、仕組みとともに、その場にいる周りの人たちのサポートが必要不可欠です。

どこの施設がどのような障害に対応しているのか、今身近にいる人がどういった障害を持っているのか、それを知らせ、感じ取るために『障害者に関するマーク』は大きな役割を果たしています。

『障害者に関するマーク』には下記の障害者、盲人のための国際シンボルマークのように世界共通でかつ図案からその意味を理解しやすいものもありますが、マークの所管先は地方自治体や各種組織等多岐に渡り、JIS規格で定められたものを含め、ほとんどの人が認識しておらず、その役割を十分に果たしていないのが現状です。

『障害者に関するマーク』は本来の役目から考えて、必要性の高いものを国が選別・認定し、ユニバーサルデザインとして国が主体となって認知度とその対応方法を周知していくことが必要であると考えます。

内閣府『障害者に関するマークの一例』

内閣府のホームページに『障害者に関するマークの一例』として
13のマークが紹介されています。

<https://www8.cao.go.jp/shougai/mark/mark.html>



赤字がマークの名称、青字が所管先です。



障害者のための国際シンボルマーク
公益財団法人日本障害者リハビリテーション協会
すべての障害者を対象とした
世界共通のシンボルマーク



盲人のための国際シンボルマーク
社会福祉法人日本盲人福祉委員会
世界盲人連合で1984年に
制定された世界共通のマーク

その他の『障害者に関するマーク』

インターネットで調べると、内閣府が紹介する13のマーク以外にも『障害者に関するマーク』が数多くあり、その中にはより幅広く全国に知らしめることができればと思えるものも存在します。



マタニティー マーク
厚生労働省



発達障害への理解と支援を広げるための
シンボルマーク
新潟県



ほっとパーキングおかやま
岡山県



広島県



広島県思いやり駐車場
鳥取県



ハート・プラスマーク
ハート・プラスの会
内部障害者・内臓疾患者
のためのマーク



盲導犬マーク
一般社団法人日本玩具協会
目の不自由な子どもが
遊べる玩具



うさぎマーク
一般社団法人日本玩具協会
耳の不自由な子どもが
遊べる玩具



介護マーク
静岡県が考案、全国へ普及中

JIS規格認定マーク

現在JIS規格の案内用図記号(JIS Z8210)にある障害者の方が身に付けるマークはヘルプマークのみです。

付属書 JD (規定)



援助や配慮を必要としている方が、身につけることで、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせることができる表示

そして障害者の方が利用できる施設・設備等を案内する福祉関係のものはいくつかあります。



高齢者優先設備
Priority facilities for elderly people



障害のある人・けが人優先設備
Priority facilities for injured people



内部障害のある人優先設備
Priority facilities for people with internal disabilities, heart pacer, etc.



乳幼児連れ優先設備
Priority facilities for people accompanied with small children



妊産婦優先設備
Priority facilities for expecting mothers



高齢者優先席
Priority seats for elderly people



障害のある人・けが人優先席
Priority seats for injured people



内部障害のある人優先席
Priority seats for people with internal disabilities, heart pacer, etc.



乳幼児連れ優先席
Priority seats for people accompanied with small children



妊産婦優先席
Priority seats for expecting mothers



ベビーカー
Prams/Strollers



無線LAN
Wireless LAN



充電コーナー
Charge point



自動販売機
Vending machine



海外発行カード対応ATM
ATM for overseas cards



オストメイト用設備/オストメイト
Facilities for Ostomy or Ostomate



洋風便器
Sitting style Toilet



和風便器
Squatting style toilet



温水洗浄便座
Spray seat



介助用ベッド
Care bed

マークの周知

『障害者に関するマーク』は、街の施設やユニバーサルデザインの物品に表記される場合は、障害を持つ方ご自身がそのマークの意味を理解している必要があります、これは問題ないものと考えます。けれど街で障害を持たれた方がサポートを要する場合は、その周りの方がマークの意味を理解すると同時にサポート方法を理解しておく必要があります、これはまだ不十分であると感じます。

冒頭述べたように必要かつ代表されるマークを政府が選別・認定し、ユニバーサルデザインとして広く周知していく必要があると考えます。

その方法は、学校のテキストに載せる、冊子として自治体、各種団体に配る、新たなユニバーサルデザインを広く公募するなど様々なことが考えられます。

マークは、その意味、それを見た時の対応方法を理解してこそ初めて価値を持ちます。

サポートハートマークの普及・推進

障害を持たれた方、あるいは何か手助けを要する方が、周りの見ず知らずの方にサポートを求めるのは勇気のいることです。

そんな時に気軽に声をかけてもらえるよう、社会的弱者の方への積極的サポートの意志を示す「サポートハートマーク」というものがありました。

これはサポートハートプロジェクト運営チームという団体が運営・提唱していましたが、この活動は昨年2021年に終了してしまい、これと同様の活動は今後も継続していく必要があると考えます。



また言葉が通じなくても指差しで意思疎通ができる「コミュニケーションチャーム」というものもありましたが、今は(たぶん)活動休止状態のようです。



これは聴覚障害者、外国人の方にも視覚的に理解でき、ビジュアル的に優れているので、若い人たちにも率先して身に付けてもらえるものです。

こういった自らサポートしたいという意志を示すマークは、国が認定・推奨し、一般化する必要があると考えます。

また同時に、そのマークを所持する条件として簡単な認定講習を設け、そこで障害者に対するサポート方法を指導するというのも一案です。

あいサポート運動



あいサポート運動
うんどう
～障がいを知り、共に生きる～

「あいサポートバッジ」
「あいサポート」のシンボルマークを身に付けます。

「サポートマーク」
「あいサポート」のシンボルマークを身に付けます。

東京2020パラリンピック女子マラソン(視覚障害)金メダリスト
山本 悠希



あいサポート運動の概要+

あいサポーターの養成

あいサポーターは、多様な障がいの特性、障がいのある方が困っていること、障がいのある方への必要な配慮などを理解して、日常生活において障がいのある方が困っているときに、ちょっとした手助けをする意欲がある方であれば誰でもなることができます。あいサポーターになるためには特別な技術の習得は不要です。



あいサポーター研修の実施

「あいサポーター」普及のため、地域や学校、職域などの研修において、出前研修「あいサポーター研修」を行っています。

研修内容(約75分)

- あいサポート運動について：「運動の目的や趣旨を説明(15分)」
- 障がいについて理解しましょう：「DVDの視聴(50分)」
- 簡単な手話：「日本で使う簡単な手話を学ぶ(10分)」

「あいサポート企業・団体」認定制度

「あいサポート運動」推進のため、従業員等を対象とした「あいサポーター研修」等に取り組む企業・団体を「あいサポート企業・団体」として認定しています。



<http://aisupporter.jp/>



国会の質疑より

参議院 2022年10月27日 文教科学委員会

#04 宮口治子(立憲民主・社民)

<https://youtu.be/FLIXc5entSQ>



ヘルプマークの認知度(東京都民対象調査)

知っている・・・87.9% 中身、内容まで知っている・・・64.9%

教科書採択 (占有率)

道徳 光村図書出版(小4 24%)、学研(小5 12%)

日本文教出版、教育出版(中学校 24%、11%)

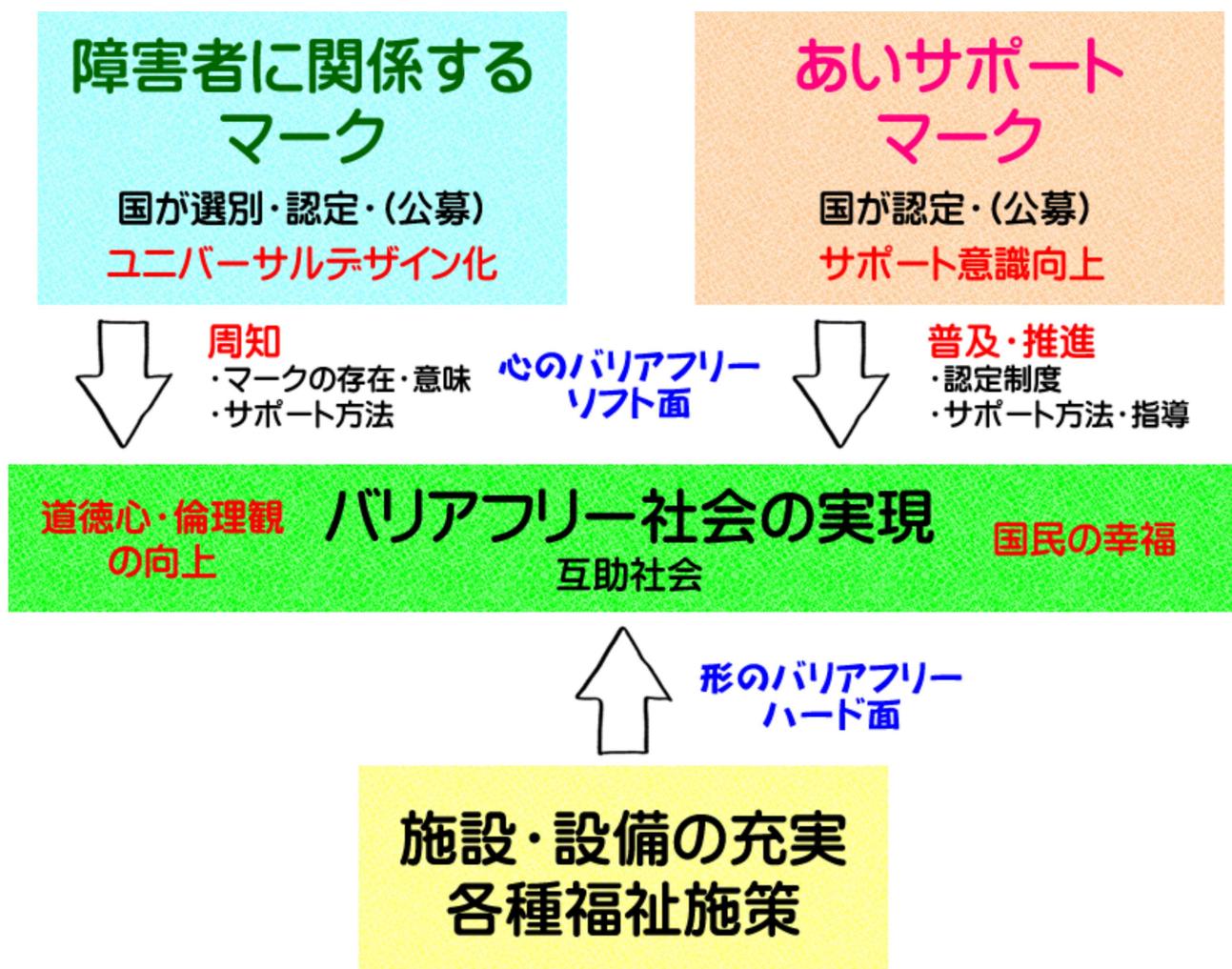
技術・家庭 三社すべて(中学校)

まとめ

日本はこれから超高齢化社会を迎え、福祉関係のサービスはますます重要度を増してきます。その対応として、施設・設備といったハード面を充実させるとともに、国民一人一人が困っている人を助け合うという互助精神が何より大切になってきます。

サポートを要する人が気兼ねなく社会に参画でき、それを周りの人たちが快く支えていける、そんな社会を築いていく必要があります。そのためには、サポートを必要とすることを周りの人たちに知らせることのできる「障害者に関するマーク」、サポート意識向上のための「あいサポートマーク」等は大きな役割を担っています。

こういったソフト面での施策は莫大な経費を必要としません。また福祉に関するソフト面での充実、国民全体の道徳心、倫理観の向上にもつながり、サポートを要する人たちだけでなく、日本国民全ての人たちの幸福度を高めることになるものと考えます。



このレポートはネットにアップしています。
<https://yogananda.cc/img/mark>

